

会員の声

現在の仕事や在学中の思い出など、3名の会員の皆様より文章を寄せていただきました。

■高専卒業生に助けられています

16期(土木) 森脇 孝

島根県庁に東京事務所があるということはほとんど知られていないと思いますが、その東京事務所に4月から勤務しています。国の省庁(私の場合は国土交通省)との連絡調整や情報収集が主な仕事です。

この仕事を進める中で、非常に心強く、頼りになるのが全国にある高専出身者の存在です。少し会話が出来るような状況になった時、お互いが高専出身者であることがわかると一気に距離が縮まります。少数ということもありますが、同じ環境の中で勉強してきた仲間という親近感がそうさせるのだと思います。実際に、丁寧に誠実な対応をしてくださる方が多く、高専卒業生に助けてもらいながら仕事を進めています。

■島根を陰から支える者

25期(電子制御) 内田 博之

会員の皆様におかれましてはご清栄のこととお慶び申し上げます。さて私こと、出雲市に本社を置くIT系企業「アイナス」を設立、代表に就任しまして早13年が過ぎました。その間、様々な方々と出会い、またご支援を賜りながら今日まで営業して参りましたが、そんな中、

島根県内における「技術分野」の特に要職にある方に、母校松江高専の出身者が多いことには、いつも驚かされます。言うなれば、我らが同窓生が島根の「技術の下支え」をしていると言っても過言ではなく、同門として私の大きな誇りでもあります。若き後輩たちや諸先輩方のご活躍が今後の島根の原動力となり、更なる発展に寄与されることを祈念し、私もまた共に頑張りたいと思います。

■心に残る思い出

39期(機械) 小松恵里子(旧姓加藤)

在学中にはいろいろな思い出がありますが、やはり夏の時期が一番印象的です。昼ごはんの後、売店で買ったアイスを体育館の裏で食べたり、夕方涼しくなってから図書館のベンチでのんびりおしゃべりをしたり、寮にいた時はテスト前に毎日徹夜して、1階の自動販売機の前で休憩し、いつのまにか朝になっていたり…。夏休みには、よく海に行きました。昼はバイク、夜は車でドライブし、夜明けまで話し続けたこともありました。今、当時の私に会えるなら「遊んでばかりいないで真面目に勉強なさい」と言いたいですが、社会人になり、あの時のように自由な夏はなくなってしまいました。だから今では懐かしく思う反面、切ない気持ちにさせる思い出として心に残っています。

同窓会HPおよび松江高専HP紹介

本会および松江高専は、それぞれ以下のようにHPを開設しております。ぜひご覧ください。

同窓会HP

<http://www2010.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

松江高専HP

<http://www.matsue-ct.ac.jp/>

「松江高専ものづくり教室」 スタッフ募集

今年8月27日(土)に、松江高専と本会の合同企画による小・中学生を対象とした「ものづくり教室」を開催いたします。スタッフとしてご協力いただける方は、ぜひ事務局までご一報をお願いいたします。

事務局より 学校創立48年目にして、初めて会報を発行しました。お盆までには、皆様のもとに届いていると思います。この会報が会員間の交流等に役立ちますよう、事務局スタッフ一同、切に願っております。より良い同窓会活動のため、皆様の忌憚ないご意見をお待ちしております。

平成23年度 松江工業高等専門学校 行事予定

皆様の在学中の学校行事と比べてみて下さい。

平成23年

4/6	入学式(定員は本科200名,専攻科20名)
4/7	前期始業式
8/6~7	オープンキャンパス(中学3年生対象)
8/9~9/29	夏季休業(期末試験後に「夏休み」開始)
9/30	後期始業式
10/8~9	高専祭(前・本・後夜祭 模擬店など。 近年「六道湖一周」は実施せず)
10/10	体育祭(近年「棒倒し」は実施せず)
11/10	ロードレース (1~3年生のみ。男子約15km,女子約11km)

平成24年

1/16~17	スキー合宿(2年生)
1/21	入学試験(推薦)(本校)
2/19	入学試験(学力)(本校・浜田・三次)
3/1~31	学年末休業
3/17	卒業式

松江工業高等専門学校 同窓会 会報

創刊号

2011.8.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL.0852-36-5111 FAX.0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp
<http://www2010.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

同窓会報発行にあたって

松江工業高等専門学校同窓会 会長(10期(土木)) 多久和正司



会員の皆様におかれましては、各界各分野で御活躍のことと思います。私たちの母校松江工業高等専門学校も昭和39年の開学以来、学科再編や専攻科の設置、独立行政法人高専機構の発足など環境の変化に対応しながら、間もなく半世紀を迎えようとしています。この間に約6,500名の卒業生を送り出し、同窓会も設立時と比較にならない規模になっています。同窓会としても、会員数の増加に伴う総会開催の困難さ、母校への貢献の在り方などについて議論を続け、代議員制度の創設など規約の改正も行いながら、会員と母校の接点としてどのような役割を果たすべきか試行錯誤を繰り返してきました。そうした中、会員の皆様への情報発信が十分にできていなかったという反省から、母校の様子、同窓会の取り組み、会員の動向などをお知らせしながら、皆様からお気づきの点などご意見もいただき、同窓会活動の活性化に役立てていきたいと考え、会報をお届けすることとしました。歯止めのかからない少子化時代において、母校においても学生確保に奔走されていると聞いていますが、その中から優秀な後輩たちが毎年巣立っています。折しも私たちがかつて経験したことのない

東北地方太平洋沖地震が発生し、被害の詳細が明らかになるにつれ、会員の皆様にとっても技術者として衝撃の連続であろうと推測しています。皆様の様々な思い出も後輩たちに伝えていければと思っています。最後に同窓会の活動維持に対し、母校で教壇に立っている会員のご尽力に対し衷心より謝意を表するとともに、会員の皆様には今後とも本同窓会と母校の発展にご理解とご支援をお願いいたします。



最近の松江高専校舎(学びの庭)

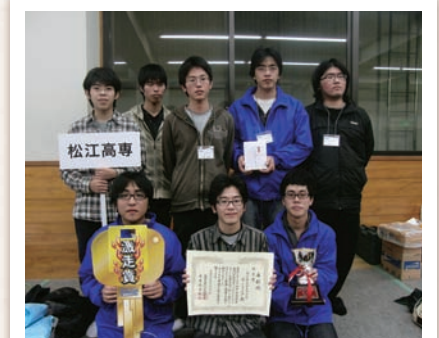
会報創刊おめでとうございます

松江工業高等専門学校 校長(同窓会 名誉会長) 荒木 光彦



松江高専の校長に着任して5年になりますが、同窓会の皆さんにご挨拶するのは初めてです。簡単ですが自己紹介させていただきます。私は昭和37年に京都大学工学部電子工学科に入学し、以来44年間同じところ(学科名は色々変わりましたが)で過ごしました。システム理論、自動制御工学、医療工学などに手を出し、また評議員、高等教育教授システム研究開発センター長、工学研究科長・工学部長などで目を回しているうちに定年1年前!お声が掛かったのを幸いにこちらへ参りました。大学に居たころから研究室所属の高専卒業生の指導、高専の先生との共同研究、高専へ出かけるの特別講義などで馴染みがあった所為か、あまり違和感なく校長職を勤めさせて頂いております。松江高専10年史を拝見しますと、地元の方々の熱意に支えられて誕生した学校であるという印象を強くします。現在でも地元の諸機関には大変お世話になっておりますが、やはり運営費交付金の出所である中央の影響が圧倒的です。平成16年に(独)国立高等専門学校

機構が発足して松江高専もその傘下の1校となり、機構本部のガバナンスの下で地域の特色を如何に出していくか苦慮しております。しかし、そんな中でも本校学生は高専体育大会、ロボコン・プロコン・デザコン・英語プレコンなどで高成績を挙げ、教職員は科学研究費や教育GPなどの競争的資金を多数獲得し、また地域人材育成事業も活発に行っており、本校の存在を大いに主張しています。同窓会の皆さんにおかれましては、会報創刊を機にますますご支援くださいますようお願いいたします。



ロボコン全国大会に出場した電気工学科の学生(平成22年11月・両国国技館)